

国語科学習指導案

令和4年6月1日（水） 第1校時 第2学年3組（1年3組教室） 指導者 前原 聡

【単元】やさいの かんさつ文を書こう（『かんさつ名人に なろう』）

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることについての知識及び技能（（1）オ）	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする能力（B（1）ア）	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度
子どもの実態	- 色や葉の数を観察して「みどり色」や「2まい」といった事実を記述することができる子どもが多い。 - 大きさや匂いを書き表しているが、「—みたい」や「—のよう」といった考え方を表す言葉を用いて、詳しく記述する子どもが少ない。	- 事実を伝える文章を書く際に、様々な観点から書くために必要な事柄を集めることができる子どもが多い。 - 日記を書く際に、集めた事柄から必要なものを選ばずに全てを書き表わそうとするため、内容が集めた事柄の列挙に留まり、一つ一つの事柄を詳しく記述する子どもが少ない。	- ペアの相手に、自分の思いや考えを伝えようとしている子どもが多い。 - 自分の思いや考えを伝える際に、用いる言葉に着目して、考え方を表す言葉のよさを感じ取る子どもが少ない。
価値	本単元では、家族に野菜の成長の様子を伝えるために、観察文を書く活動を行う。野菜は成長するため、継続して観察文を記述するためには、観察文の度に異なる言葉を用いる必要があり、使用する語句の量を増やすことができる。また、異なる野菜を育てている友達と一緒に観察して書き留めたことを共有したり、観察文を記述したりすることにより、自分と友達の考え方や書き方を比べながら観察文に必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。さらに、野菜を育てていない家族という相手意識、成長の様子を伝えるという目的意識が活動への意欲を高め、言葉を用いて思いや考えを伝えようという態度の伸長につながる。		
	大きさや匂いなどは、写真や描画だけでは伝わりづらい。家族に正確に伝えるためには、身近なことを表す語句を、考え方を表す言葉として観察文の中で使う必要がある。様々な考え方を表す言葉を用いた表現を見いだすことで、自分の語彙を豊かにすることができる。	家族に、野菜を育てていて気付いたことを伝えるためには、野菜の成長の様子を観察文として書きためておく必要がある。観察して分かったことや気付いたことを書き留めておくことで、観察文に必要な事柄を集めることができる。また、他の野菜の観察メモや観察文と比較することで、自分が観察している野菜の特徴が浮き彫りになり、伝えたいことを明確にすることができる。	身の回りで用いる言葉や事物を表す言葉を観察文の中で使ったり、観点を明確にして観察したことを記録したりすることで、野菜の成長の様子に気付くことができるとともに、言葉がもつよさを感じることができる。
見・考え方	野菜の成長の様子とその考え方を表す言葉、言葉と言葉との関係を捉えたり問い直したりして、観察文に必要な事柄を集めたり確かめたりする情報の収集の仕方に気付くこと。		
今後の学習	「町たんけんで 見つけた すごいもの（「こんな もの、見つけたよ」光村図書2年上）」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて、報告文を書く学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

単元	やさいの かんさつ文を書こう（『かんさつ名人に なろう』）		
目標	野菜の成長の様子を観察して、観察文に必要な事柄を選び、伝えたいことを明確にして観察文を書くことができる。		
言語活動	家族に野菜の成長の様子を伝えるために、観察文を書く活動		
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(Ⅰ)オ) (②思・判・表)「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (Ⅱ)ア) (③主体的態度)積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、今までの学習を生かして観察文を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	Ⅰ	○保護者が回答した、家庭で話題にしたいことに関するアンケート結果を共有して、学習課題を設定する。 学習課題 お家の人に野菜の成長を伝えるために、観察文を書こう	○観察文には、それぞれの野菜の成長の様子を記述する必要があることに気付けるよう、野菜を持ち帰ったときに、家庭で話題にしたいことのアンケート結果を提示する。
ふかめる	Ⅰ	○観察文に必要な事柄を理解して、野菜の種子の観察文を書く。	○「色」「大きさ」「形」などの観点を基に、種子の様子とは異なる事柄を集められるよう、事柄を書き留めるためのシートを「Jamboard」に用意する。
	生活科	○芽を観察して、見付けたことや気付いたことを「Jamboard」の付箋に書き留める。	
	Ⅰ	○観察文に必要な事柄を複数集める必要性を理解して、出芽の様子を観察文に書く。	○書くための事柄を複数集める必要があることを理解できるよう、必要な事柄が少ないモデル文を提示する。
	生活科	○本葉の様子を観察して、見付けたことや気付いたことを「Jamboard」の付箋に書き留める。	
	Ⅰ	○考え方を表す言葉を理解して、本葉の様子を観察文に書く。(本時)	○考え方を表す言葉を使うと観察文が詳しくなることに気付けるよう、全体で、考え方を表す言葉を使って付箋に書き留め、観察文を書く機会を設定する。
	Ⅰ	○収穫した野菜を観察して、見付けたことや気付いたことを「Jamboard」の付箋に書き留める。	○考え方を表す言葉を使うことができるよう、考え方を表す言葉の一覧表を用意する。
かふえりる	Ⅰ	○家族に伝えたい事柄を選び、野菜の観察文を書く。	○これまで学習したことを生かして観察文に必要な事柄を選ぶよう、観察文の観点例や考え方を表す言葉の一覧表を掲示する。
	家庭	○家族と観察文を読む。	
かふえりる	Ⅰ	○単元の学びを振り返る。	○野菜の成長を詳しく書くことができたことを実感できるよう、家族に観察文を見せたときの反応を共有する時間を確保する。
			◇学習課題の解決状況に関わって、進んで必要な事柄を集めたり確かめたりして観察文を書いたことに着目し、今後生かせそうな文章の書き方について記述している。 ＜振り返りシート③＞

本時の学習（４／７時間目）

ね ら い 本葉の様子を伝えるために、考え方を表す言葉を用いて観察文に必要な事柄を集めて確かめ、伝えたいことを明確にして観察文を書くことができる。

評価項目 本葉の様子を観察し、考え方を表す言葉を用いて、必要な事柄を書き留めている。

<Jamboard①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・友達のように「—みたい」や「—と同じ」という言葉を使うと、観察文がより詳しく書けそうだな。 (目的意識)	○考え方を表す言葉を用いた表現のよさに着目できるよう、考え方を表す言葉を使用している子どもの観察文を複数提示して、表現による印象を問いかける。 ○考え方を表す言葉を使って観察文を書くという目的を達成する見通しをもてるよう、教科書に掲載されている考え方を表す言葉の一覧を提示し、観察文に使いたい言葉を問いかける。
めあて：考え方を表す言葉を使って、観察文を詳しく書こう	
2 野菜の観察文を書く。 ・黒板の観察文では葉が細長いことを伝えているけれど、「—みたい」を使えば、もっと詳しく書けそうだな。 ・「ねぎみたいな形」と付箋に書いて、Jamboardに載せておけば、書くときに参考にできるね。 ・とうもろこしの葉の大きさは定規くらいあるな。「じょうぎと同じ大きさ」とJamboardの付箋に書いて、足しておこう。ペアの仲間は、葉の端が「わかめみtainな形」と書いていて面白いな。 ・葉の大きさについて書いたよ。初めは葉の色についても書いてしまっていたけれど、葉の大きさに絞って観察文を書くことができたよ。 ・読んでくれた仲間から、とうもろこしの特徴がよく伝わると言ってもらえたよ。特徴を詳しく書くことができたんだね。 ・とうもろこしの葉の大きさを伝えるために、「じょうぎと同じ大きさ」と考え方を表す言葉を使って、この前よりも詳しく観察文を書くことができたよ。 (目的を達成した意識)	○考え方を表す言葉の使い方を理解できるよう、考え方を表す言葉が入っていないモデル文を提示し、書き足すことができる事柄を問いかける。 ○考え方を表す言葉を使用できるよう、「Jamboard」の付箋に事柄を書き出し、記述する過程を演示する。 ○積極的に考え方を表す言葉を使用して、観察文に必要な事柄を集めようとするよう、生活科で「Jamboard」に集めた事柄を見返して、新たに事柄を書き留めるよう促す。 ○集めた事柄を羅列している場合には、書き上げた観察文を音読して、観点が一つであることを確かめるよう助言する。 ○考え方を表す言葉を使用して、詳しく観察文を書くことができたことと認識できるように、書き上がり次第、他の野菜を観察している友達と観察文を読み合うよう促す。 ○考え方を表す言葉を使用することのよさを自覚できるよう、観察文を読んだ友達の感想を全体で共有し、取り組みを称賛する。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・次回は、いよいよ収穫した野菜を観察するのだな。今回みたいに考え方を表す言葉を使って詳しく書きたいな。	○本時で達成したことを共有するとともに次時への課題意識をもてるよう、本時でできたことと、本時ではうまくいかなかったことを振り返りシートに書くよう促す。